

I 研究主題について

1 研究主題

**英語に親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～楽しく活動できる SMART な授業実践を通して～**

2 研究主題設定の理由

(1) 教育の今日的課題から

外国語によるコミュニケーション能力は、生涯にわたる様々な場面で必要とされ、その能力の向上が課題となっている。相手の立場を尊重しつつ自分の考えを表現し、相互理解を深めていく必要性はますます高まるであろう。外国語を用いて互いの思いを伝え合い、理解し合い協力し合うことが一層重要になると考えられる。学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現が掲げられ、2020年4月より中学年での外国語活動、高学年での外国語科が導入され、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するという目標が設定された。このことから、小学校では、指導体制の充実や授業の工夫・改善を図りながら、英語に慣れ親しませ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することが重要になってきている。

(2) 御船町の取組及び学校教育目標から

御船町教育振興基本計画には、グローバル人材の育成「ALT、英語教育指導員等を活用した英語教育の充実」が示されており、本校は英語教育推進校として、低学年は35時間、中・高学年は70時間の英語科学習を実施している。また、11月には、御船中学校区「学力向上」研究発表会を行い、本校も教育課程特例校として第1学年の英語科授業を公開し、研究推進の中心に位置づけ取り組んできた。町の取組の中では、『確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成』というテーマで、御船版「熊本の学び」SMARTな授業実践を推進し、御船町の各小中学校が、共通の成果指標に向かって各校の実態に応じた取組や改善を行い、結果検証や効果的な実践の交流を進めてきた。

本校の教育目標は、「夢に向かい 心豊かで たくましく 自ら学ぶ 高木っ子の育成」であり、育みたい資質・能力「自律（立）、そして自尊感情と他者意識」を掲げている。研究主題は、以下のような視点から学校教育目標の具現化に資すると考える。

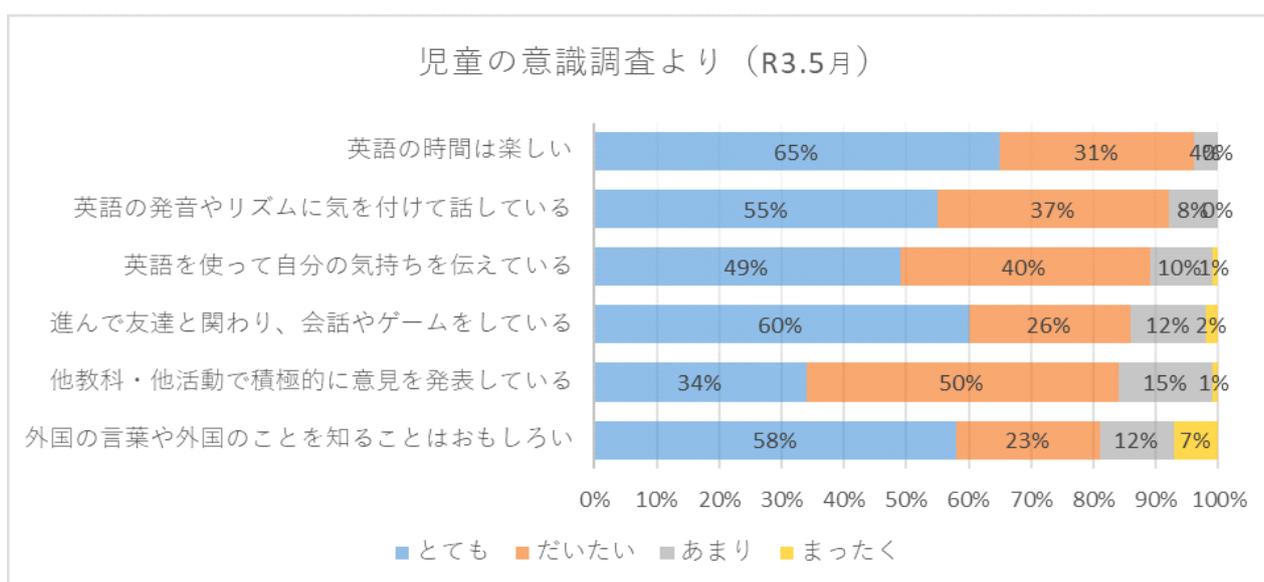
○英語教育の推進は、豊かな心を持ち、夢に向かって自ら学び、自分の思い・願いを表現する児童の育成につながるものである。

○様々なコミュニケーション活動を通して、互いを理解し、他者を尊重する姿、自分で課題を見つけ解決していく態度は、豊かで自ら学ぶ児童の姿と言える。それを他教科、他活動に生かすことで思考力や表現力が高まり、確かな学力の向上につながる。

(3) 児童の実態から

児童の意識調査の結果（資料1）から、「英語の時間は楽しい」「発音やリズムに気を付けて話している」と答えた児童は90%を超えているが、英語を聞き取ることや自分の気持ちを伝えることへの苦手意識を感じている児童もいる。また、「進んで友達と関わり、会話やゲームをしている」児童は86%で、昨年度との比較では増加したが、「他教科・他活動において積極的に意見を発表している」と感じている児童はまだ少ない。さらに、「外国の言葉や外国のことを知ることはおもしろい」と答えた児童は約80%で、他国への興味・関心を高める環境づくりを充実させていくことが課題である。

以上のことから、コミュニケーションを図ることの楽しさを味わわせ、思いを伝え合うことができる児童を育てていくために、英語に慣れ親しませる工夫や授業改善、指導体制の充実、他教科・他活動との関連を図った取組を中心にした研究を深める必要があると考える。



資料1 児童の意識調査

3 研究主題の捉え方

「英語に親しむ」とは

- ・英語の音声に慣れ、語彙や文の構造などを理解し、基本的な表現を用いて楽しみながらやりとりしたり発表したりすることを通して、日本語と英語の違いや英語特有の音声やリズムに気付き、英語に繰り返し触れること。

「進んでコミュニケーションを図る」とは

- ・コミュニケーションの目的、場面、状況に応じて、主体的に人と関わり合う中で、相手や他者に配慮しながら相手の思いなどを聞いて理解しようとしたり、積極的に自分のことを分かりやすく伝えようとしたりすること。

「楽しく活動できる」とは

- ・自分の思いが伝わる喜び、人と関わる心地よさを味わい、互いの思いや願い、夢を伝え合うことの大切さを知ることができること。

「SMARTな授業」とは

- | | | |
|---------------------------------|---|-------------------------|
| S : シンプル (学習内容の焦点化) | … | 絵本等の読み聞かせ、Small Talk |
| M : 目的・目標 (単元のゴールの姿の設定) | … | Greeting & Today's goal |
| A : アクティブ (児童が活動する時間の確保) | … | Activity 1 |
| R : 練習 (定着を図る時間の確保) | … | Activity 2 |
| T : たしかめ (学習のまとめや振り返り) | … | Look back & Ending |

- ・御船版「熊本の学び」の授業を取り入れ、学習内容の焦点化や単元のゴールの姿を設定することで、何ができればよいのかを明確にし、児童の活動する時間や定着を図る時間を確保することを大切にし、児童が自信をもって取り組むことができる授業。

II 研究の方法

1 研究の仮説

【仮説1】 SMARTな授業を実践し、考えを伝え合う活動を大切にした学習づくりを行えば、児童は進んでコミュニケーションを図ろうとするだろう。

【仮説2】 他国への興味・関心を高める環境づくりを行えば、児童は日常的に英語に慣れ親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとするだろう。

2 研究の視点

視 点	具体的な取り組み
《視点1》 必然性のある場面設定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 興味・関心を高める題材やゴールの設定 児童が「やってみたい！伝えたい！」という意欲を高め、目的意識や必要感を持つことができる題材を単元のゴールに設定 ○ 身に付けさせたい力を明確にした活動の設定 ゴールの姿をイメージした単元全体を見通した単元計画
《視点2》 一人一人が英語に慣れ親しむための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○ 語彙や表現に繰り返し慣れ親しませる活動 ねらいに応じた絵本の読み聞かせや Small Talk、チャンツやゲームを活用し、児童の意欲を高める活動 ○ ALTや英語教育指導員との連携 ALTや英語教育指導員との打ち合わせを行い、役割を確認
《視点3》 他教科との関連及び低・中学年の系統	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他教科と関連した単元計画 国語、図工、生活科など、他教科との関連を図ることで、児童の学習への意欲を高め、学習を深める ○ 低学年から中学年への系統化 低学年の学習内容に表現を追加し、第3学年の学習につなぐ
《視点4》 評価の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○ 評価場面や評価方法 活動中の中間評価、終末の自己評価・相互評価を行い、児童の達成感につなぐ ○ 振り返りカードや単元テストによる評価 自分の頑張りを実感し、指導者が児童の学習状況を把握
《視点5》 環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他国の文化に触れる校内掲示 ○ 言語環境の充実 ○ 特別活動における主体性 ○ 保護者や地域への啓発

3 研究の構想

教育目標 夢に向かい 心豊かで たくましく 自ら学ぶ 高木っ子の育成

研究主題

**「英語に親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」
～楽しく活動できるSMARTな授業実践を通して～**

【仮説1】

SMART な授業を実践し、考えを伝え合う活動を大切に学習づくりを行えば、児童は進んでコミュニケーションを図ろうとするだろう。

【仮説2】

他国への興味・関心を高める環境づくりを行えば、児童は日常的に英語に慣れ親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとするだろう。

《視点1》

必然性のある場面設定

《視点2》

一人一人が英語に慣れ親しむための工夫

《視点3》

他教科との関連及び低・中学年の系統

《視点4》

評価の工夫

《視点5》

環境づくり

『御船版「熊本の学び」』



授業改善



『たかきよし』



御船の学び

ALT、英語教育指導員の活用

いきいきたかきっ子大作戦

家庭学習の充実